

CQ7: 深部静脈血栓症の急性期症状改善に圧迫療法は有用か？

パブリックコメント用 改変不可

推奨7	クラス	エビデンスレベル			
深部静脈血栓症の急性期症状改善に圧迫療法を施行する。	IIa	C			
参考文献	研究形式	対象	介入	対照群	結果
Kahn, 2014	RCTの副次解析	中枢型DVT患者 803名	足関節圧30-40mmHgの弾性ストッキングによる圧迫療法	プラセボストッキング	弾性ストッキングはプラセボストッキングと比べて60日までの下肢痛に差を認めなかった(疼痛スコアの平均差, -0.27, 95%CI -0.56~0.03)。なお, 1ヶ月時点で毎日着用している患者に限定しても両群間に有意差を認めなかった(疼痛スコアの平均差 -0.25, 95%CI -0.59~0.10)。
Amin, 2018	RCTの副次解析	中枢型DVT患者 856名	大腿部までの多層包帯法もしくは大腿部までの弾性ストッキングによる圧迫療法	非圧迫	多層包帯法もしくは弾性ストッキングによる圧迫療法群は, 非圧迫療法群と比較してDVT発症後3ヶ月のVillaltaスケールにおける客観的な臨床所見が有意に少なかった(平均値 1.52±1.59 対 2.21±2.15, p<0.001)。主観的な臨床症状やVillaltaスケールの合計点は3群間で有意差を認めなかった。1ヶ月後の日常生活やDVTに特化したQOLを用いた評価では, 弾性ストッキング群が多層包帯群よりも有意に高いQOLを有していたが(EQ-5D: 0.86±0.18 対 0.81±0.23, p= 0.015) (VEINES-QoL ^{int} : 0.66±0.18 対 0.62±0.19, P= 0.030), 3ヶ月後にはその差は消失していた。なお, 圧迫療法群と非圧迫療法群との比較で

					は、1ヶ月後の QOL に有意差を認めなかった。
Galanaud, 2022	RCT	中枢型 DVT 患者 341 名	25mmHg 圧の弾 性ストッキングに よる圧迫療法	35mmHg 圧の 弾性ストッキン グによる圧迫 療法	25mmHg 圧の弾性ストッキングは 35mmHg 圧の弾性ストッキングと比べて 2 年 時点での血栓後症候群 (Villalta スケール \geq 5)の予防効果は非劣性であった(絶 対差 -2.3%, 90%CI -12.1~7.4, 非劣性 p=0.0062)。3ヶ月時点での症状(疼 痛, 腫脹, 不快感)も両群間で有意差を認めなかった。

CI: Confidence interval, 信頼区間

DVT: deep vein thrombosis, 深部静脈血栓症

EQ-5D: EuroQol 5 Dimension score, EuroQoL における 5 項目記述式評価(QOL の指標)

QOL: quality of life, 生活の質

RCT: randomized controlled trial, ランダム化比較試験

VEINES-QoL^{int}, 下肢静脈疾患に特化した QOL 指標

文献

Kahn S, Shapiro S, Ducruet T, et al: Graduated compression stockings to treat acute leg pain associated with proximal DVT: A randomised controlled trial. *Thromb Haemost.* 2014; 112: 1137-1141

Amin EE, Joore MA, Ten Cate H, et al: Clinical and economic impact of compression in the acute phase of deep vein thrombosis. *J Thromb Haemost.* 2018; 16: 1555-1563

Galanaud JP, Genty-Vermorel C, Barrellier MT, et al: 25 mm Hg versus 35 mm Hg elastic compression stockings to prevent post-thrombotic syndrome after deep vein thrombosis (CELEST): a randomised, double-blind, non-inferiority trial. *Lancet Haematol.* 2022; 9: e886-e896